

第1回審議会（ペットボトル②）での主なご意見・ご質問

1 審議会でのご意見・ご質問

項目	ご質問
市民の役割について	○市民がメーカーや流通の取組をしっかりと見て、選択できるようにすべき。
事業者の役割について	○ペットボトルの回収ボックスがなかなか見当たらない。イトーヨーカドーに設置しているのは見るが、市が積極的に店頭回収を増やすよう働きかけてほしい。 →市ではごみ減量・リサイクル認定店制度で周知を図っているが、セブン・イレブンとの包括連携協定に基づき協議も進めており、進捗があり次第報告したい。（事務局）
分別ルール・分別収集について	○概ねキャップやラベルをはがしてきれいに出していただいているが、管理人がいない集合住宅等で分別ができていない状況がある。 ○やはりペットボトル収集の有料化を検討してほしい。有料化したお金の一部を水平リサイクルに配分するなど誘導するのはどうか。
リサイクルセンター建替期間中の対応について	○建替期間中のペットボトルやプラスチックの焼却処理について、どう市民に周知していくのか。 →建替期間中の3年間も分別を変えないことを市民に周知したい。（事務局） ○建替期間中の3年間はペットボトル・プラスチックを焼却せざるを得なくなった経緯について市民にきちんと説明してほしい。 →リサイクルセンター整備基本計画の中で建替期間中のCO ₂ 削減について方針を出し、地元協議会にご理解をいただいているが、なかなか保管場所の確保が難しかった経緯がある。
リデュースについて	○やはりリデュースが大切であり、調布駅前広場などに給水スポットを設置した方がよい。 ○多摩地区の市町村には給水スポットを設置する例も増えているので、進めてほしい。

2 審議会後に提出いただいたもの

項目	ご意見
リサイクルセンター建替期間中の対応について	<p>○【要約】ふじみ衛生組合のリサイクルセンター建替えによるプラスチックとペットボトルの焼却は、温暖化政策と廃棄物政策にとって深刻な問題である。工事期間中の増加分は約 7 年間で回収できるとのことだが、むしろ、「脱炭素の取り組みを 7 年間遅らせる施策」であると認識すべき。</p> <p>プラスチック類の焼却による二酸化炭素排出量の増加は調布市の温暖化対策実行計画にはカウントされないとのことだが、実質的には調布市の事務事業に起因している。また、廃棄物製作としての問題点は、市民のごみ分別の努力も無駄になることにある。施策の実施には市民への丁寧な説明だが、例えば都外に搬出する場合の CO₂ 排出量の予想や一時的な保管場所の新設の是非など、十分に説明されていない。</p> <p>今回の対策が検証の結果やむを得ないものであったとしても、追加的な対策が必要であり、総量管理や代替措置の検討が重要である。</p> <p>○リサイクルセンターの建替え期間に活用する代替処分場に、この機を生かし公募した市民ボランティアを招き体験を通じて PET 処分の現状を理解してもらう。</p> <p>○当審議会ではリサイクルセンター工事期間中のプラや PET ボトルの焼却について反発が強かったと思います。しかし短期間の焼却処理回避のために、新たに別の場所に新施設を設けることは十分吟味する必要があります。即ち 3 年間しか稼働しない設備の建設・製造・解体の損失、処理業者までの運搬方法や距離、当該業者のリサイクルの方法を十分に検討して真にこれがエコなのか判断すべきと思います。一方ふじみではサーマルリサイクルを行っており、総ごみ量の 20%が電力として再利用されています。総ごみと PET の燃焼熱がわかれば PET の何%が有効利用されているかが計算でき、熱収支を定量的に表現すれば、反発の度合いは変わる可能性もあります。また助燃材使用料に減少が見込めればそれも効果に加えられます。</p> <p>○建替期間中のペットボトルは焼却となることを市民に現状説明し、削減に向けての協力と今後の正しい処理の仕方を伝えていくことが大事と思う。分別が悪い排出元に改善・指導を行える期間が 3 年あると前向きに考えるのはどうか。</p>

項目	ご意見
店頭回収の推進について	<p>○住民に対しては店頭回収に積極参加をするよう、今まで以上に啓発活動を続けていただきたい。ふじみリサイクルセンターでは来年からの3年間はPETボトルリサイクルが工事の関係上できないので、特に店頭回収の必要性を強調し訴えていただきたい。更にその3年間で店頭回収が習慣化するよう誘導していただきたい。</p> <p>○回収ボックスを設置するスーパー、コンビニを増やす。</p>
ペットボトルの収集について	<p>○PET収集量は市民一人当たり11.5g/日ということだが、具体的に500mlPET半分の量などと示したほうが良いのでは。※家のPETを計ると1本25g</p> <p>○ペットボトル収集の有料化。</p>
水平リサイクル（ボトルtoボトル）の推進について	<p>○PETボトル製造業界は、PETボトルがその衛生性、利便性から多くの利用者に支持・使用されていることを十分に認識して、自らの費用負担でユーザーから回収し、100%の水平リサイクルを実施すべきと考えます。そのために調布市は今後とも他市と協働して、市が現在行っている回収費用負担を製造業者に求める活動を継続していただきたい。現在は生産者がその回収費用を含めて全ての費用を負担すべき時代と考えます。</p> <p>○水平リサイクルを確実に実施するため、再商品化事業者の選定は入札ではなく、事業者を指定できるようにしたほうが良い。負担額増は市民に詳細を説明。</p>
市民や事業者と連携した取り組みについて	<p>○PET大量消費&排出の要因は小容量PETに慣れてしまったことにあり、ここから問い直すことが必要だと思う。そのために市民、メーカー、流通、調布市との共同活動を提案→市内ではPET飲料の1ℓ以下の販売は禁止（メーカー、流通）、1ℓ以下の容量はビン、紙、マイボトル（市民）、給水場（調布市）で行う。1ℓ禁止が困難な場合はデポジット制を導入する。</p> <p>○元々は企業が商品を守るために容器に入れているので、その企業が回収するまでの責任を考えてほしい。</p> <p>○自然原料、リサイクル性の優等生であるビン容器を見直す。重量、破損性のデメリットがあるが見直すには適期である。市内のメーカーホッピービバと協業で調布オリジナルのリターナブル瓶（軽量&強堅）を開発</p>

項目	ご意見
	し、流通協力の元デポジット制リターナルを導入する。容器解決の先駆けとして市外、世界へのアピールともなる。
市民への PR 啓発等について	<p>○市民啓発のため、ポスター展、俳句に加え“調布のグレッタさん募集（仮称）”と題し、現在調布が抱えるごみ問題（PET、生ごみ、分別）に立ち向かう高校生を募り市民、ごみ対策課とともに毎年一つの課題を解決していく。</p> <p>○調布市がペットボトルの減量・リサイクルに向けてどのように取り組んでいるか、どうしていかなければならないのかをもっと分かりやすくアピールすべき。ペットボトルは問題なくリサイクルされている市民は多いので、分かりやすく具体例を挙げてこれからの生活・未来へどのような到達点へ向かうかを何度も広報していくことが大事。</p> <p>○リサイクルキャラクター「リサッチョ」を市民への PR 啓発に有効に使えないか。「ごみを分別しない未来から来た」子ども用ロボットのキャラクターを活かし、定期的にごみアプリに登場させるなど、こども達には分かりやすく、大人に向けては厳しい問を投げかけてみるのはどうか。</p> <p>○子ども・大人への環境教育。駅前等、人の集まるところでのイベント・啓蒙活動、チラシ配布。収集車両にペットボトルの正しい出し方を貼る。</p>
給水スポット等の設置について	○駅前の再開発を今後していく中で、水補給ステーション、おしゃれな回収ボックスを設置していくのも大事なことと思う。（外観だけではなく）環境重視、SDGs を推進する市の姿勢を前面に出した開発が大切なことと思う。